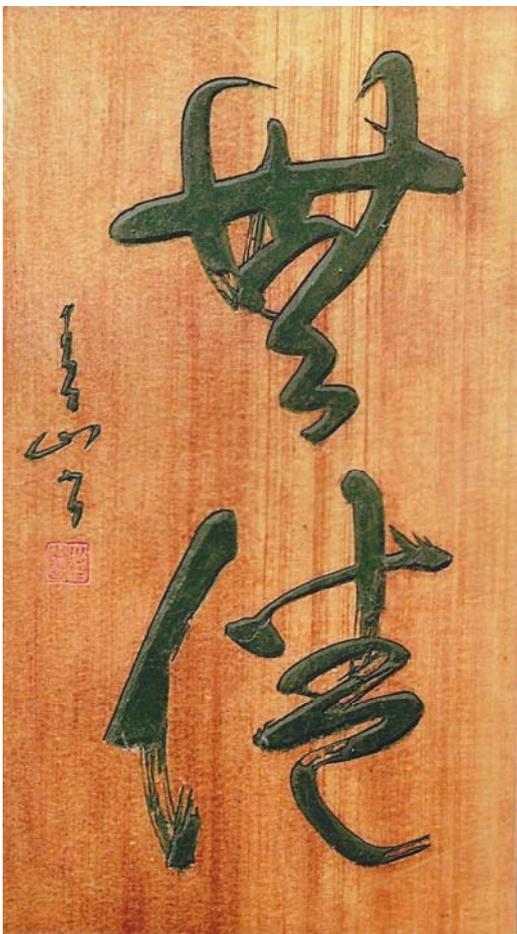


# 教職課程センターだより 第6号

発行日 2011年3月25日

## 無 倦 (倦むことなかれ)

教職課程副センター長 大和田 孝士



今年は例年になくいつまでも寒いような気がしています。奈良東大寺二月堂のお水取りも済んだというのにである。私は稲沢（国府宮）の生まれで、小さいころから「国府宮さんの裸祭りが済むと暖かくなる」と言われ育ちました。しかしこの「センターだより6号」が出るころは当然暖かくなっていると思います。

この稿を書いている最中、東北で大地震とそれに伴う大津波がありました。報道を見ているとあまりの惨状に言葉を失います。唯々、被災された方々の無事と一刻も早い救援を祈るばかりです。

さて、近年就職氷河期などと言われる社会情勢、やはり寒いのかとも思っていますが、卒業生諸君の就職は決まったのでしょうか。少々気がかりです。もとより浅学で、従来大学の新卒と既卒では就職に差別があったなんて知りませんでした。その点については政府や企業の方でも頑張ってくれたようです。

教員採用ではそのような差別は聞いたことがありません。前号で教員採用試験については、自省を込めて、思っていることを書かせていただきました。当たり前のことですが、何とんでも「教員になりたい」という強い気持ちと、その目標に向けたその強い気持ちに勝る頑張り、努力が大事であることは言をまたないと思います。

「無倦」とは論語に出てくる言葉で、子路が孔子に「政治」の仕方を尋ねたところ、孔子は「人民の先頭に立ち、人民のために働くがいい」と答えたところ、子路がもっと他にしなければならないことがあると思うが、それを教えて欲しいとお願いしたところ、孔子曰く「無倦」（今言ったことだけでよい「飽きずにやるのが大事だ」）と答えたというのです。

大学生の4年間を生きた時間にするか、無駄な時間にするかは諸君の心がけ次第ではないでしょうか。今自分がなすべきことは何かを自覚し、地道に一所懸命に努力することが大学生活を有意義にかつ真に楽しいものにしていくのではないかと思います。

これからも教職課程センターでは、学生諸君の努力に対し、出来る限りの支援をしていきたいと考えております。

# フィールドワークの感想

子ども発達学部 子ども発達学科3年  
東 菜摘



教師を目指す仲間が集まって一緒に学び合う教友ゼミが始まり、私は第1回目から参加させてもらっている。このゼミでは、教員採用試験に向けて勉強方法をつかみ、教育実習を見通した模擬授業などの活動を通しておよそ1年間、学んできた。その中で去年12月、前回の奈良に続いて、フィールドワークを行う運びとなった。先生方からご意見をいただき、仲間と話し合い、場所は京都、教員採用試験で扱われると予想される一般教養であり、自分たちの目で見えておく必要のあるお寺を選んだ。多くの参加の声も募ったら、賛成し、協力してくれた仲間の姿がとても温かかった。そのような仲間の力もあり、無事にフィールドワーク当日を迎えた。初めて参加する人も前回参加した人も、このフィールドワークにさまざまな思いで臨んでいるよう様子で良い雰囲気の中、出発することができた。どの活動においても、ただ活動を目の前にするのではなく、1つでも何か目的とねらいを持って活動に臨むことで見え方や感じ方に重みが出てくるのではないかと受け止めた。限られた時間の中で数種類のお寺を巡ったが、特に印象に残っているのは広隆寺である。事前に調べた弥勒菩薩を見てみたいという気持ちがあった。写真で見て想像したものとは異なり、脳裏に焼きついた。また、悩みや苦しみを救い、正しい道へと導いてくれるという伝えもあると知り、あの時あの場であの仲間と弥勒菩薩に出会えたことも財産のように思う。あつという間の1日だったが、帰りの反省会でそれぞれが今の自分と向き合い、何か大学生活に持ち



広隆寺にて

帰ることができた様子だったので、とても良い1日となった。また後日、私は会計係の最後の仕事として、会計報告を作成し、協力してフィールドワークをつくり上げてくれた仲間や先生方にお金を返し、しっかりと活動を締めくくることができ、満足である。フィールドワークを終え、1人1人が夢という目標に真剣に取り組みながらも、教友ゼミで得た仲間と高め合いながら課題を乗り越えていく関係をつくっていききたい。そして、残り少ない大学生活の中でも多くのことを吸収し、夢をかなえる力に役立てたいと考えている。

## 成岩中学校アシスタント体験記

社会福祉学部社会福祉学科4年 尾関真由美/加藤はるな



成岩中学校では主に数学の授業、空き時間には特別支援学級の授業にアシスタントティーチャーとして参加させていただきました。自分たちが都合のよい日、都合のよい時間に入ることができたので、負担なく行くことができました。自分の担当の先生が決まっており、その先生に付きその先生の授業をアシストします。また、給食がいただけたのもとても嬉しかったです。給食は自分の担当の先生のクラスで食べるか、職員室で食べるか選べます。職員室で食べる時は、先生方とお話などもでき、最近の中学校の事情や教員としてのやりがい、また厳しさなどを聞くことができました。他にも、空き時間に社会科の授業の見学もさせていただきます。授業の構成、どんなことを話した時に生徒が食いつくのか、自分自身も驚くような歴史の裏話など、教育実習前だった私にとってとても良い勉強になりました。授業の流し方、導入のコツ、こんな話を持っていくと生徒の目が光るんだなというのがわかるので実習時の授業も他の実習生に比べ、やりやすかったと思います。

数学の授業では、生徒が問題を解いている間に机間巡視をして生徒たちに声をかけたり、問題を解くサポートをします。少しずつ経験していくうちにどの生徒が問題を解けず困っているかどうか気付くことができるようになりました。私は数学は本当に苦手で、はじめは不安ばかりでしたが、「そこにいてくれるだけでいいよ。」と言ってもらえ、自分にできる範囲で、分らなければ先生に聞くという形をとらせていただけたので気持ちの面でもあまり負担になることなくできました。

今の中学校は、中学生と関わりがない人は特にそうだと思いますが、自分の想像とはいろいろな部分で違うことが多いです。実習前に中学校を知ること、授業、生徒との関係づくりの経験しておくことは、実習に対する不安を和らげ、自分にとって自信になりました。



## 卒業生からの近況報告

愛知県立千種聾学校小学部 檜垣栄慈

(2003年3月社会福祉学部社会福祉学科卒業)

### ■経歴

特別支援学校の教師になろうと決意し、伊勢田ゼミへ。サークルは、I部聴覚障害者研究会「加絵手」や障害者福祉研究会などに所属していました。卒業後、上越教育大学大学院（現在、特別支援教育コース）に進学しました。その後、愛知県の教員になり、知的障害養護学校に3年、聾学校に2年勤めてきました。現在は、聾学校小学部5年の担任をしています。

### ■近況

聾学校の授業では、口話と手話を併用したり視覚情報を提示したりして学習内容を分かりやすく伝えることが求められます。さらに、子どもたちが意欲的に学ぶことができるように工夫することも大切です。私は、子どもたちが様々な内容を学習していく際に、「あれっ?!」「そういうことか!」と驚きや気づきを大切にしたいと考えています。そして、授業において「すごいやん、おれたち!」と達成感を味わうことができるように心がけています。そのための授業研究や教材教具の準備には、時間をかけています。

### ■学生時代の学び

学生時代、ゼミ仲間とともに地域の知的障害児を対象とした地域生活支援「このゆびとまれ」を企画したり、フィールドワークで特別支援学級の子どもたちと交流したりする活動に取り組みました。実践を通して、子どもの実態を把握することや集団活動を組織することの難しさを痛感しました。学生時代の学びは、講義で学んだことを実践して、また実践する中で学んでいくことの繰り返しだったように思います。「子どもたちの発達をどう捉えるのか」「支援として何が必要なのか」と仲間とともに悩み、議論し合ったことは、現在の教育実践で役立っています。学生の皆さんも、机上の学びだけでなく、仲間とともに学び合い、語り合うことをこれからも大切にしてほしいと思います。

### ■最後に

最後に、私は、障害児・者に関わる生活、福祉、教育を学んだ後輩のみなさんが教師になってくれることを願っています。「絶対に教員になる!」と決意した方は、教員採用試験に向けて、それ相当の努力を覚悟された方だと思います。努力は、決して裏切りません!あなたと一緒に学び、遊び、悩み、笑うことを待っている子どもたちのために、がんばってください!

## 第4回 教育実践交流会報告

去る1月29日（日）、卒業生6名（現職教員）、学生22名、大学教員4名の計32名の参加者をむかえ、第4回教育実践交流会が本学で開かれました。

交流会は、午前中、古賀先生（愛知・K高校福祉科）の実践報告、伊勢田先生の「特別支援教育の専門性と教育臨床」と題する講演、午後からは現場で活躍されている卒業生6名の方々からの実践報告・討論という内容で進められました。

講演は、伊勢田先生の40数年に及ぶ豊かな教職経験とご自身の教員養成教育の課題をまとめたものであり、先生ご自身の教員生活からの教訓「人は人によって人になる」「子どもから学ぶ」という言葉を手がかりに、障害児理解や教員養成における教育臨床の重要性、体験的学習のカリキュラム化など特別支援教員養成の現状と課題、支援教員の専門性などが語られました。先生の障害児教育に寄せる思いや教員養成にかける情熱を肌で感じとることができる感銘深いお話でした。最後に先生が語られた「教職は、人を幸せにする仕事、誇りをもって仕事をしていきたい」という言葉は、参加者の胸に響く素敵なメッセージでした。

午後からは、奥野先生（大阪・堺聴覚支援学校）の「重度重複児童の指導」、大岩先生（愛知・春日台養護学校）の「校内実習」、檜垣先生（愛知・千種豊学校）の「説明文の読解力向上をめざした授業実践」、福井先生（愛知・一宮大志小）の「小学1年生の算数の授業」、松永先生（日福大付属高校）の「社会科の授業」など、多彩な取り組みの報告がありました。

また、教員採用試験に現役で合格した原司紗さんから「自分を信じてやること」「自分の勉強スタイルを決めて実行すること」ことなど、教採への取り組みの体験談が報告され、参加した3年生に「教採は頑張れば結果がでる」とエールが送られました。

参加した学生たちからは、「先生方が輝いて見えた。教職への励みとなった」「現場の様子や課題を知ることができた」「子ども目線にたって子どもを見ることの大事さがわかった」「教師になろうか悩んでいたが、理想像が見えてきた」「今日のお話しで改めて頑張る気持ちになった」などの感想が出され、参加学生にも実りの多い交流会となりました。

昨年度も報告で指摘したことですが、この交流会のあり方については、依然として方向性が判然としない状態です。大学本体の組織改革が教員養成課程のあり方にも影響を与え、会の目的や性格づけ、運営体制などについて方向性が打ち出しにくい現状です。しかし、今後の交流会の発展（学内研究会への道）を考えるならば、組織体制の確立、講師役の先輩諸氏に交通費や謝礼が出せるくらいの財政基盤を整備することが急がれます。（文責：高須）

### 今後の予定

#### 【新2年生】

3月25日（金）～3月31日（木） 課程登録期間

☆上記オリエンテーションに出席後、事前に課程履修費を用意した上で、課程履修費の納入及び課程登録を行ってください。

#### 【新3年生】

4月9日（土） 410教室 教職課程オリエンテーション

☆教育実習の意義・内容・関係書類手続きについてのオリエンテーションを行います。

#### 【新4年生】

4月9日（土） 510教室 教職課程オリエンテーション

☆教育実習にあたっての諸注意などのオリエンテーションを行います。